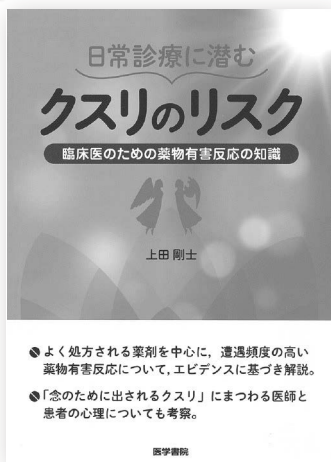




日常診療に潜むクスリのリスク

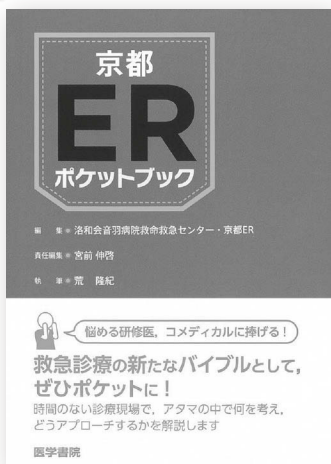
臨床医のための薬物有害反応の知識

上田剛士＝著

本体 2,800 円＋税／A5 判・164 頁／医学書院／2017

本稿の著者、上田剛士先生がエビデンスをもとに“これだけは知っておきたい！薬物有害反応の知識”を、この1冊にまとめました！これは必読です！

市販されている薬剤は実にたくさんあるが、一般臨床医がよく遭遇する薬剤と薬物有害反応の組み合わせには決まりがある。本書では、頻度の高い薬物有害反応をとり上げ、特によく処方される薬剤を中心にエビデンスに基づいてわかりやすく解説。また、薬物有害反応を頭では理解していても、医師や患者が「念のためのクスリ」を求めることは稀ではないことから、薬物有害反応が減らない理由を心理学的な観点からも取り上げた。



京都 ER ポケットブック

洛和会音羽病院 救命救急センター・京都 ER＝編

宮前伸啓＝責任編集

荒 隆紀＝執筆

本体 3,500 円＋税／A6 判・416 頁／医学書院／2018

多くの研修医が ER で経験すること——救急車で搬送された患者の緊急対応についていけず置いてけぼり。ウォークイン患者の問診に時間がかかり、検査・治療計画が立たず、あっという間に1時間。イライラする看護師・患者・家族——。ところが上級医は、ごく短時間でそれらを組み立て、解決し、そのうえ系統だったフィードバックまでこなす。本書は、研修医時代の荒 隆紀医師の問題意識から生まれた。上級医は頭の中で、こう考え、こうアプローチしている！